



野菜と果物のちがいは何、どうやって見分けるの

野菜は、草の仲間が多い

よく食べる野菜として、キャベツ、ダイコン、ネギ、ホウレンソウ、カボチャ、キュウリなどを考えてみましょう。どれも、種やなえを植えて1か月～数か月で、収穫し、食べる部分は、葉やくき、根、実などいろいろです。どれも、大きな木にはならず、収穫した後は、すぐかれてしまいます。ですから、野菜は、草の仲間に入るといえます。

果物は、木になる

よく食べる果物を、思いうかべてみましょう。ミカン、リンゴ、カキ、ブドウ、サクランボなど、どれも、木になる実ですね。

でも、メロンやイチゴ、スイカなどは、木になる実ではありません。草の仲間になる実といえます。とはいっても、メロンやイチゴは、果物という感じがします。

こんなわけで、野菜と果物を、うまく区別することは、なかなかむずかしいといえます。

野菜と果物は、ご飯のおかずかどうかで分ける

野菜や果物をあつかっている市場の人に、どのように区別するのかきいてみました。すると、「ご飯のおかずで食べるものを野菜、おやつやデザートで食べるものを果物として、区別している」ということでした。

でも、植物の仲間分けや、さいばいする方法などで分類すると、キュウリと、メロンやスイカは、同じ仲間に入ります。そのため、農産物の生産量などの数字をまとめたりするときは、スイカやメロン、イチゴなどは、野菜の仲間に入れるれることも多いのです。

(監修・矢野 亮)

